

平成28年度 袖ヶ浦市立図書館サービス状況 点検・評価

「袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画（後期）」〈5〉サービス目標 より

“「図書館は、そのサービス水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため「数値目標」を設定し、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を市民に公表するように努めます。”

評価基準

- A：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上
- B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満
- C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満

平成29年9月
袖ヶ浦市立中央図書館

サービス目標（１）資料及び情報の収集、提供等

平成 29 年 4 月 1 日時点市人口 62,390 人 平成 32 年度 想定市人口 64, 000 人

サービス指標(☆は新指標)	実績(H.28)	目標(H.32)	達成率	
☆①図書購入タイトル数/購入冊数(%)	83.0	90.0	92.2%	A
☆②蔵書冊数(所蔵図書冊数)	678,517	710,000	95.6%	A
☆③市民一人当たりの蔵書冊数(冊/人)	10.9	11.1	98.2%	A
④袖ヶ浦市関係資料の受入冊数(冊/年)	328	270	121.5%	A
⑤年間利用者数(人/年)	147,201	155,000	95.0%	A
⑥市民新規登録者数(人/年)	1,128	1,200	94.0%	A
⑦市民登録率(%)	44.4	60.0	74.0%	B
⑧資料貸出数(点/年)市外含む総計	561,459	650,000	86.4%	A
⑨市民一人当たりの貸出数(点/人)	9. 0	10. 2	88.2%	A

(サービス内容)

「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、資料の整備に努めます。

第3次図書館サービス網計画の中で、資料整備については、「人口1人当たり10冊を基本に640,000冊を目標とします。」とうたっています。現在、蔵書冊数は65万冊を越え、前期の目標値は達成していますが、図書館資料については、最新の情報を提供し書架の新鮮さを保つためには継続的な更新が必要であることから、今後も開架資料の5%の更新を目標として、市民に多種多様な学習要求に応えられるように、幅広いタイトル数を購入するよう努めてまいります。

少子高齢化の急速な進行に伴い、図書館の利用についてはこの5か年で、資料貸出総数、新規登録者数等については減少傾向にあります。

図書館としては、利用者により資料に関心を持ってもらうための時宜的な資料展示やテーマ展示、また転入者への利用案内の配布、県立袖ヶ浦高校生に利用案内を配布するほか、今後も図書館資料の情報提供を進め、利用の拡大に努めます。

内部評価

○全体評価 : B

- ・新刊図書を購入するほか、郷土行政資料や利用の多い図書の寄贈を呼びかけ、開架書架の図書324,096冊に対して14,263冊(うち購入13,294冊)を受け入れし、約4.4%を更新することが出来た。(冊数は平成29年3月31日時点の数値)
- ・市民一人当たりの貸出冊数は、余暇時間の減少などの理由により減少しているが、県内では

未だ上位の水準にある。しかし、催し物や学校、他の社会教育関係機関等と連携した貸出企画を行うなど貸出を伸ばす取り組みを行ったが、平成26年度から増加傾向にあった利用者数は昨年度減少に転じた。原因としては少子高齢化により、または余暇時間の減少により、図書館の利用が減少しているためと考えられる。一方で、館内に滞在し雑誌や新聞、図書を閲覧する等の館内利用は、数値としては統計がないが増加している。

○課題

- ・市民新規登録者数については、ここ数年は1,000人強にとどまっている。今後も引き続き転入者への働きかけを行うなど、袖ヶ浦駅北口開発や蔵波地区の宅地開発に伴い、新規利用者の掘り起こしを行なっていく必要がある。

○今後の対応

- ・図書館資料については、今後も新しい情報に対応した資料を計画的に収集し、利用を喚起していく。
- ・視覚障がい者用データベースについては、広報活動を通じて利用の普及に努める。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・長浦については主に社会科学関連図書を重点的に書架の更新を図った。
- ・視覚障がい者用データベースに加入し、視覚障がい者が利用しやすい体制を整備し、関係機関への周知を行った。(登録者1名、貸出点数71点)
- ・秋のトショロ月間において、普段利用されることの少ない図鑑やハウツー本等を、「マニアックな本」として展示し、利用の促進を図り、中央・長浦で計388冊展示し、278冊を貸し出した。また、平川図書館、根形・平岡公民館図書室においては大人と子ども向けに「本のおたのしみ袋」を各館40袋用意し、中身を見ないでテーマだけを参考に本を借りてもらう催しを行い、計120袋、360冊のすべてを貸出した。
- ・袖ヶ浦高等学校の生徒全員に「図書館を使いこなそう」という利用案内を配布した。また中央館においてYA(ヤングアダルト=青少年)コーナーに、高校生向けのおすすめ本リスト「ティーンズトショロ」に掲載した本を、紹介文を付けて展示したほか、ブックトラックにもおすすめ本を集めて館内の目立つ場所に置き、YAコーナーのPRを行った。また、袖ヶ浦高校図書委員のおすすめ図書をYAコーナーに展示し、紹介した。(10/29~3/30)
- ・ブックスタート事業の中でも、参加者に個別に図書館の利用案内や新規登録の働きかけを行った。

<継続>

- ・お薦め図書のリストを一般向けに2種類「男女共同参画社会関連図書リスト」「新成人に贈るお薦めの100冊」、パスファインダー(調べ案内)を一般向けに1種類「子育て・育児情報」、児童向けに1種類「天気を調べる」を新たに作成したほか、以前に作成した児童向けパスファインダー「植物を調べる」の改訂版を作成した。児童向け調べ案内は特に夏休み中の調べ学習において有効に活用された。
- ・袖ヶ浦高等学校の新生全員に利用案内を配布した。また、市役所市民課、長浦・平川行政センターに依頼し、転入者全員に図書館の利用案内を配布することとした。
- ・全館において夏休み中に「宿題おたすけコーナー」を設置し、児童の利用促進を図った。
- ・中央館資料展示とテーマを関連付けて、名画鑑賞会で邦画を3本上映した。(滝廉太郎関連で「わが愛の譜」、司馬遼太郎関連で「梟の城」「御法度」)

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

袖ヶ浦駅の北口開発や蔵波地区の宅地分譲に伴い、今後も本市への転入者は増加することが見込まれる。また、ブックスタートをはじめ乳幼児の保護者への働きかけを積極的に行うなど、新規登録者を増やす取り組みを行っていただきたい。

サービス目標（２）社会情勢の変化に対応したサービスの充実

平成 29 年 4 月 1 日時点市人口 62,390 人 平成 32 年度 想定市人口 64, 000 人

サービス指標(☆は新指標)	実績(H.28)	目標値 (H.32)	達成率	
⑩一日あたりのホームページアクセス件数 (件/日)	253.1	315	80.3%	A
⑪一ヶ月あたりのWeb予約件数(件/月)	2,352.3	2,250	104.5%	A
☆⑫学校図書館への対応 ・団体貸出総冊数(冊数/年)	3,885	6,000	64.8%	B
⑫学校図書館への対応 ・出張おはなし会参加者数(人/年)	4,583	6,000	76.4%	B
⑬レファレンス件数(件)	851	800	106.4%	A

(サービス内容)

① 情報化社会への対応

今後も、ホームページの充実を図り、またメールマガジンの発行により、新着資料の情報提供や個々に関心の高い資料情報の提供を行うなど、より利便性の高い情報発信を行っていきます。

② 学校図書館への対応

学校図書館への支援については、今後も引き続き、団体貸出、レファレンスサービス、学級文庫への読み物のセット貸出を行うなど学校図書館を通じた子どもたちの読書への支援をさらに推進します。また学校を訪問してのおはなし会等を開催し、調べ学習の支援を行います。

③ 高齢化社会への対応

高齢者にとって、より利用しやすい図書館を目指し、今後も大活字本の提供、朗読CDの積極的な収集提供に努めます。

④ 関連施設・関係課との連携

他の公共図書館との連携により、市民への資料提供をより一層充実させます。また今後も他の公共図書館、学校図書館、博物館などの教育施設との連携を図り、子育て支援を推進し、図書館利用の促進のため、関係課との連携をより強化していきます。

⑤ 国際化への対応

国際化が急速に進展し、子どもから大人まで、市民が外国の文化に触れる機会も増大しています。より外国の文化を理解し、外国人に日本文化を紹介するための外国語資料の充実を

図り、外国語による利用案内等を作成します。

⑥ 職業能力開発の要求への対応

労働を取り巻く環境の変化により就職、転職、能力開発、日常の仕事等で情報を必要とする市民は増加しています。こうした利用者に対応するための資料の収集・提供、適切なレファレンスの実施等、個人の学習ニーズに応える機能を高め、図書だけでなく、就労や資格取得のためのパンフレットやちらし等による情報提供、インターネットを活用した情報や、法律・経済関連のデータベースの提供を行います。

⑦ レファレンスサービスの充実と利用促進

レファレンスサービスについては、情報量が増大し、多種多様となっている現代社会において、課題解決のための支援はますます重要になっています。市民の課題解決支援に対応するために必要な図書資料及び電子資料の提供に努めます。

内部評価

○全体評価 : B

- ・Web予約件数は増加しているが、ホームページアクセス件数は減少に転じている。ただし、ホームページの総ページ閲覧数は増加しており、これはWeb-O-P-A-Cの新着資料等の定期的な更新に努めたためである。
- ・メールマガジン配信サービスを平成27年9月より開始し、登録者数は3月末で93名と増加している。
- ・学校図書館への団体貸出しについては、学校図書館の資料の充実に伴い、提供冊数は減少している。また読み物・絵本セットの貸出しについても減少しているが、これは学校図書館から各学級に貸出しができるようになったためである。
- ・出張おはなし会の参加者数は大幅な減少に転じた。この理由としては、対象クラスの人数が減少していること、中学校からの依頼が年に2・3回あったものが1回になったこと、学校ボランティアによる読み聞かせの時間が増え、図書館への依頼が減少していることなどがあげられる。
- ・大活字本については積極的な収集やPRに努め、貸出冊数が回復した。
- ・レファレンス件数は、調べ学習のための児童生徒の問い合わせ、それ以外の問い合わせ双方ともに増加している。

○課題

- ・出張おはなし会の依頼が減少することにより、子どもたちが素話を体験する機会が少なくなっている。絵本の読み聞かせだけでなく、素話の大切さを学校に向けてPRする必要がある。

○今後の対応

- ・出張おはなし会については、依頼が来ていない幼稚園や小中学校に声掛けをしていく。(袖ヶ浦市桜ヶ丘幼稚園、根形小学校、根形中学校、蔵波中学校など)
- ・高齢者向けの講座については要望が高いため、毎年継続的に開催していく。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・中央館において敬老の日にちなみ、ブックトラックに大活字本のおすすめを集め、館内の目立つ場所で大活字本コーナーをPRした。
- ・秋のトシヨロ月間で、長浦において「あんしん終活のすすめ」を開催し、52名の参加があ

った。

- ・中央図書館展示コーナーで、中央図書館開館30周年を記念し、「～中央図書館開館30周年記念～写真と色紙でたどる図書館30年のあゆみ」として、移動図書館の写真や著者を囲む会等で招いた作家等の色紙を展示し、図書館活動を振り返る展示を行った。
- ・根形公民館図書室において、根形公民館まつりの期間中に「ミツケて！トショロ」を開催し、図書室内のトショロを子どもたちに探してもらい、参加者に「紙コップでつくるお散歩トショロ」を記念品として配布した。(参加者37名)
- ・平岡公民館図書室において、平岡公民館まつりの期間中に「おりがみでお花をつくろう」を開催し、ボランティアによるおりがみでの紙花づくりを行った。(参加者64名)

<継続>

- ・ホームページやメールマガジンを通じて図書館や読書に関する最新の情報発信を行った。
- ・外国語資料については、日本文化を紹介する図書やガイドブックを中心に購入した。
- ・市民の調査研究の支援のため、館内閲覧用の電子資料として平成27年度から日本経済新聞のデータベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを導入した。
日本経済新聞データベース閲覧件数45件(平成27年度 閲覧件数154件)
国立国会図書館デジタル化資料閲覧件数19件(平成27年度 閲覧件数18件)
- ・平成27年度の袖ヶ浦市関連新聞記事一覧を冊子体で作成し、前月分の記事一覧をホームページ上で公開、地域情報の充実を図った。
- ・夏のトショロ月間では、「親子いっしょのおはなし会」として、袖ヶ浦高等学校生徒による読み聞かせを行った。また、中央館児童室では昭和中学校図書委員会による展示、長浦の市民ギャラリーにおいて蔵波中学校美術部員による作品展示を行った。
- ・秋のトショロ月間において、YAコーナーで「袖ヶ浦高校図書委員のおすすめ図書展示」を行った。(10/29～3/30) また、根形中学校生徒が作成した絵画を中央図書館一般書架フロア等に展示した。

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

B評価の⑫学校図書館への対応については、学校図書館の充実という外部的な要因によるものであるが、今後は学校図書館のニーズを捉え、学校図書館を通じて児童生徒の読書や調べ学習の支援を行うという公共図書館の役割を積極的にアピールしていくよう努力していただきたい。

サービス目標（3）利用者に応じたサービス

平成 29 年 4 月 1 日時点市人口 62,390 人 平成 32 年度 想定市人口 64, 000 人

サービス指標(☆は新指標)	実績(H.28)	目標値 (H.32)	達成率	
☆⑭児童サービスの充実 ・ブックスタートにおける本の配布率(%)	92.8	100	92.8%	A
☆⑭児童サービスの充実 ・おはなし会参加者数[館内・館外の合計](人)	10,580	13,000	81.4%	A
☆⑭児童サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(回/年)	4	4	100%	A
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(Y・A)	1	1	100%	A
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(ジュニア)	1	1	100%	A
☆⑯高齢者サービスの充実 ・大活字本の貸出冊数(冊/年)	4,419	5,000	88.4%	A
⑰障がい者サービスの充実 ・宅配サービス(冊/年)	388	350	110.9%	A
☆⑱図書館ボランティアの育成(名)	59	70	84.3%	A
⑲来館者満足度(%)	76.8	75.0	102.4%	A

(サービス内容)

① 子どもたちのために

今後も子どもたちが読書の楽しさを体験し、本に親しむことのできる読書環境の充実に向けて、学校、幼稚園、保育所等との連携を図りつつ、「袖ヶ浦市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた、わらべうたであそぼう、えほんのへや、おはなし会を開催するとともに、新たに健康推進課の4か月児教室において、ブックスタートを実施し、乳児期からのサービスを提供します。

② 高齢者のために

今後も、高齢者に配慮した施設の整備を図り、大活字本などの資料の充実に努めます。また、社会福祉協議会、高齢者クラブ等の関係機関・団体との連携を図りながら、映画会、講習会等の読書普及事業の実施、図書館利用の際の介助など、きめこまかな図書館サービスの提供に努めます。

③ 図書館利用に障がいのある人のために

宅配サービス等の利用案内を引き続き広報等でPRに努めると共に、目の不自由な方へのサービスについても、要望があった場合には的確に対応できる体制を整えます。

④ 主体的に学ぶ市民のために

市民が読書に親しむ取り組みとして、図書館サークルやボランティアの協力を得ながら、市民に親しまれる図書館を目指し、あらゆる世代に対し図書館の利用や読書に結びつくよう、各種講座・講演会、名画鑑賞会、資料展示等を開催していきます。また、公民館や博物館等の社会教育機関、学校、民間の関係機関との共催事業等、多様な学習機会の提供に努

め、市民の情報活用能力の向上を支援するため、学習機会の提供に努めます。

- a. 余暇活動支援 b. 学習生活及び調査研究支援 c. IT支援
- d. 行政支援 e. ビジネス支援

⑤ サークル活動をする人のために

市民が図書館資料を共有する中で交流し、暮らしに根ざした自主的な活動を展開していくことは、地域の文化活動を豊かにします。図書館では市民の文化活動、コミュニケーション活動の拠点として、図書館資料、施設を利用して活動するサークルに対して、その活動を支援します。

⑥ ボランティア活動をする人のために

市民のニーズにあった事業を展開していくために、市民の知識や技術を生かした市民協働の図書館運営を目指し、新たに展示、映画会事業をはじめ様々なボランティアを養成します。

内部評価

○全体評価 : B

- ・夏休み期間中の「夏のトショロ月間」、読書週間をはさんだ「秋のトショロ月間」をそれぞれ1か月にわたり開催し、様々な内容の催しを行い、多数の参加があった。(夏のトショロ月間: 1, 283名、秋のトショロ月間: 1, 248名)
- ・図書館事業の運営について、より市民の意見や要望を取り入れ市民と協働で開催していくために、映画会ボランティア養成講座を開催し、9名の登録者があった。2月8日には長浦においてボランティア企画として名画鑑賞会「黒部の太陽」を開催し107名の参加者があり好評であった。
- ・ブックスタートボランティア養成講座を開催し、4か月児の発達等についての講義や演習を行い、12名の新規登録者があった。
- ・平成27年度に募集したおはなし会ボランティアに対し、今年度は中級編として養成講座を行い、素話を語る実技講習を行って最終的な新規登録者が6名となった。

○課題

- ・出張おはなし会の学校からの依頼数の減少、おはなし会の参加者の減少が目立ってきており、子どもたちが素話を体験する機会が減少している。乳幼児とその保護者に対し、これまで以上に図書館利用の呼びかけ、またはえほんのへやなどの催しへの参加等、積極的に働きかけを行う必要がある。
- ・ボランティアについては、映画会、ブックスタート、おはなし会などの活動に必要な人数がまだ不足している。

○今後の対応

- ・高齢者向けの講座は、身の回りの課題をテーマに今後も継続して開催していく必要がある。
- ・中央図書館において、職員配置の可能な土曜日午後などにおはなしのへやを開放し、随時職員が読み聞かせを行う等の日常的な取り組みを充実させる。併せて、参加者の少ない定例のおはなし会については開催方法の見直しを検討する。また、今後「絵本の読み聞かせボランティア」を養成し、中央・長浦・平川における「すきすき絵本タイム」の開催を検討する。「絵本の読み聞かせボランティア」には、おはなし会ボランティアと一緒に出張おはなし会にも携わってもらうことで、素話への関心を喚起するとともに、おはなし会ボランティアの人員不足を補っていく。
- ・学校ボランティアとして学校において読み聞かせの活動を行っている人にも、図書館の講座への受講を呼びかけることで、絵本の読み聞かせや選び方に習熟してもらい、子どもたちが

絵本や物語に触れる機会を充実させていく。

- ・ボランティアの養成については今後も継続的に募集、養成していく。特に映画会、ブックスタートについては平成29年度も募集を行う。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・子ども読書の日記念行事として、期間中は全館で貸出冊数を20冊に増やし、1回に20冊借りた子どもには記念品として手作りのマグネットをプレゼントした。(190個) また、テーマ別のお薦めの絵本を3冊セットにして袋詰めをした「えほんのふくぶくろ」を用意し、178セットの貸出があった。
- ・夏休み期間に、親子を対象に開催した子どもの本の講座では、児童文学作家の今西乃子氏を招き、「命の授業」と題して、犬の殺処分の現状から命について考えその大切さを学ぶ機会を設け、64名の参加があった。
- ・秋のトショロ月間において、高齢者向けの講座として、中央では「浮世絵と江戸庶民の生活」をテーマに浮世絵を鑑賞しながらの講演会(48名)、長浦では講座「あんしん終活のすすめ」(52名)を開催した。また長浦において、登録サークル「むかしむかしの会」による、「大人のためのお話会」を開催し、40名の参加があった。
- ・視覚障がい者用データベース「サピエ図書館」からダウンロードにより71タイトルのDAISY図書を作成し、54タイトルを提供した。
- ・市民三学大学との共催で金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫氏を招き、中央図書館開館30周年記念講演会を市民会館で開催した。金子みすゞに関する蔵書の展示や、図書館登録サークル「朗読サークル『萌』」による朗読コンサートも併せて開催した。(参加者280名)
- ・映画会ボランティアの定例会を10月から毎月1回開催し、上映作品や活動内容について話し合いを行い、活発な意見交換が行われた。

<継続>

- ・夏のトショロ月間では、全館で「おしえて!きみのすきな本」(472名)「宿題おたすけコーナー」、中央において昭和中学校図書委員会のお薦め図書展示(30名20点)、長浦において蔵波中学校美術部の作品展示(22名46点)を行った。また中央館では、小学生を対象に誕生日の出来事を新聞の縮刷版で調べる「書庫探検」(28名)、登録グループサークル「むかしむかしの会」が袖ヶ浦高校生徒と一緒に「親子いっしょのおはなし会」を開催した。(参加者60名) 平成27年度には中央館で開催して好評だった午後6時からの「ちょっぴりこわいおはなし会」を長浦で開催し、39名の参加があった。
- ・文芸講座において、菅原孝標女の「更級日記」をテーマに、流通経済大学教授の和田律子先生にお話しいただいた。終了後の懇話会は10名の参加者があり、講師の人柄もあり、盛況であった。(4回開催177名)
- ・利用者アンケートを実施し、利用者満足度は76.8%であった。

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

おはなし会の大切さ、本を読むことの楽しさを、多様な場所や機会を捉え、ボランティアと協力しながら子どもとその周囲の大人へ積極的に伝えることで、子どもを取り巻く読書環境を充実させ、子どもたちが本に親しむ機会を増やす努力をしていただきたい。